請願第15号

請　　願　　書

令和６(2024)年12月５日

郡山市議会議長
佐　藤　政　喜　様

郡山市湖南町三代字中ノ入2628
猪苗代湖自然公園を守る会
代　　表　　増　戸　健太郎

紹介議員　　吉　田　公　男

湖南七浜利用拠点整備改善計画の撤回を求める請願

［請願趣旨］

今年７月16日付福島民友新聞社より郡山市観光政策課による磐梯朝日国立公園猪苗代湖・湖南七浜地区整備改善計画、すなわちキャンプ場が現在の７つから３つに集約し、民間企業にリゾート地として開発及び有料化し、利用ができない規制ゾーンを設ける報道が一方的に発表され、利用者である地元住民・郡山市民・県民・国民の知らない内に一方的に計画が進んでいます。

拙速な開発ありきの郡山市の姿勢と自然保護とは逆行する計画に反対するとともに国立公園法に基づいた公平な猪苗代湖自然公園整備に関する会議に利用者であり、多数の意見とアイディアを持つ市民・県民・国民を参加させ、湖南七浜整備について議論を深め、過疎地域である湖南町活性化策にあらゆる方々に参加寄与していただきたいため、以下の事項について請願いたします。

［請願事項］

観光政策課が進める表記計画の撤回と市民が参加するゼロベースから会議開催をすること。

請願第16号

請　　願　　書

令和６(2024)年12月５日

郡山市議会議長
佐　藤　政　喜　様

郡山市朝日二丁目14-７
福島さくら農業協同組合
代表理事専務　　柳　沼　　智

郡山市開成二丁目22-２
安積疏水土地改良区
理 事 長　　國　分　周　司

紹介議員　　吉　田　公　男
　　遠　藤　　隆
　　近　内　利　男

2025（令和７）年４月１日付け行政組織改編の延期と農林部の存続を求める請願

［請願趣旨］

本年市制施行100周年を迎えた郡山市から、ＪＡ福島さくら及び安積疏水土地改良区に対しまして、多大なるご支援をいただいていることに対し、敬意を表し感謝を申し上げます。

市制施行100周年を迎えた郡山市は東北第２の都市として発展を続けておりますが、明治初期の安積平野開拓・安積疏水開削の国家プロジェクトの成功の前は大槻原を始め水利が悪く、各村の入会地になっておりました。明治９年（1876年）明治天皇の東北巡幸の前に内務卿大久保利通が視察に訪れ、その後、猪苗代湖疏水の開削と士族移住による安積平野開墾という大事業を、国家の一大プロジェクト第１号として展開する最初の条件が整えられ、進めることになりました。今から148年前の事業です。安積疏水工事は延べ85万人、３か年の歳月を費やし、明治15年８月に完成しました。農作物の作付けに必要不可欠の水の提供は、安積平野を潤したばか

りでなく、豊富な水量と落差を利用して沼上発電所が建設され、豊かで低廉な電気料は、製糸、紡績、製材、精米業をはじめとして多くの企業を育て、大正６年には東洋曹達（現保土ヶ谷化学）、翌大正７年には日本化学が進出してくるなど、郡山市の工業化にとっても大きな役割を果たしました。安積平野で生産されるコメ（コシヒカリ・ひとめぼれ）の生産量は質・量ともに全国の上位を占め、豊富な水とため池を利用した鯉の生産量は、市町村別で日本一を誇り、畜産業ではうねめ牛を、園芸作物では御前人参や佐助ナスなど14種類のブランド野菜の生産につなげるなど、安積疏水開削と安積平野の開拓は、100年以上の歴史の中で連綿と子孫に受け継がれてきておりました。それらの事業を展開する中で、大きな役割を果たしてきたのが郡山市農林部であります。今回の組織改編は、「部」を含めた統廃合であり、前述した歴史を見ても農林部の統合は、歴史を正しく反映したものとは見られません。今回の組織改編案は、11月22日の市長記者会見で表明され、その後、新聞報道で知るところとなり、市民の理解を得られる時間があまりにも少ないために、実施日の延期と農林部の独立存続を求めます。

　つきましては、以下の事項について請願いたします。

［請願事項］

１　2025（令和７）年４月１日付け行政組織改編案を延期すること。

２　農林部は統合しないで、独立の部として存続すること。